

右命令ノ配布先ニ第一五旅團アルヲ以テ大隊ハ該旅團ニ屬スル
モノノ如ク別ニ濠洲第二四歩兵大隊ハ何方警戒ノ爲「ホテ」地
區ニ待機中ノ旨命令中ニ記載シアルヲ以テ該大隊モ同旅團ニ屬
スルモノノ如シ

同少佐ノ所持セル暗號書ノ配布區分表ニ記載セル部隊五五ニシ
テ其ノ主要ナルモノ左ノ如シ

濠洲第三師團司令部 第一五旅團 第三師團 L通信小隊五九
分ノ五八（略號？）歩兵大隊 第二四 歩兵大隊

第十七旅團 第六師團 K通信小隊五分ノ二

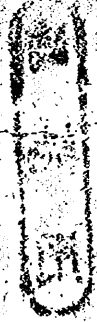
歩兵大隊六分ノ二 歩兵大隊七分ノ二 歩兵大隊三分ノ二

偵察中隊

「ワウ」 「ブコロ」各警備隊 一分ノ二

野戰砲兵聯隊第一砲隊 六分ノ二

砲兵第二觀測小隊 第一五六輕高射砲隊 第七〇八海岸（此處デ
 ハ對空）砲隊（米） 濠洲工兵司令部 第三師團通信本部 第八
 二野戰砲兵隊 第八三野戰砲兵隊 第一〇二濠洲FO（？）D
 第三師團所屬作業隊 第四六分ノ二及第二三一濠洲LAD（輕砲
 兵？）
 第三師團所屬測量隊 第三師團所屬戰場掃除隊 第三師團方面ニ於
 ケル酒保第二分ノ二 戦死者登録隊 第三師團所屬娛樂所 第三
 師團休養所
 第三師團所屬野戰防衛區第一三防禦及陣地構築小隊 「アングワ」
 （「マーカム」地方）司令部 第三〇六無線方向探知隊 第二挺
 道給給小隊 第五AF（？） 第一照空隊



第一一戰團配備司令部

「ニューギニア」軍CSO(?)

(終)

103

0106

右ノ如キ大發ノ纏リタル集、團、運、行ハ敵ノ「ナツソウ」上陸時以
來中絶シアリテ十七日再現セルモノナリ「ナツソウ」ニ上陸セ
ル敵ハ依然動カズ「ナツソウ」及附近ノ島ヲ上陸支援基地トナ
シアルモノノ如シ

ニ「ムボ」守備隊ノ「カミアタム」ヘノ撤退ニ依リ七月末頃ニハ
「ナツソウ」「ムボ」「ボブダビ」ノ敵ハ確實ニ連繫スベシ

最近「フィンシユ」南方及「バング」(「ラエ」南方三〇杼海
岸)附近ニ於ケル敵魚雷艇ノ活動稍々増加ス

軍ハ之ガ制壓ノ爲「タミ」島(「フィンシユ」南方二〇杼)ニ
歩兵一中隊ヲ基幹トスルモノヲ派遣スル如ク企圖シアリ(二十

二日二十三日頃)

西土民等ノ狀況ヨリ判断スルニ七月末前後ニハ新ニ敵ハ「ラエ」
「サラモア」附近ニ上陸ヲ變更スル如キ懸念アリ 「ナツソ、ウ」
ニ於ケル敵舟艇ノ還行及「ブナ」「モロベ」附近ニ在ルト判断
セララル米軍第四一師團ノ動靜ハ注目ノ要大ナリ

(終)

106

0109

第三號

至急極秘

日誌用

電

報

七三

昭和八、七、三二
一六五三〇
一六三〇
一七三五〇
七三〇

猛部隊參謀長

通電先次長剛ウエワク

羊ハ河第三野戦輸送司令部ニ

傳達ヲ乞フ

猛參電第六八〇號

第五十一師團ノ報告ニ依レバ二十日二十時三十分

分ホイシ(サラモア南方六料)南方海岸ニ

敵ノ一部隊上陸セリ 詳細後報ス

(急)

107

0110

陸軍

電報

七二二

一〇一〇
四九八〇
二〇四〇
五〇〇〇
點受著發

昭和一八七二二

猛部隊參謀長

通電先 庶務課長 陸剛

猛參電第六五一號

陸軍密電第三八二號ニ依ル第五十一師團ノ南支殘置人員ノ第十五師

團ヘノ轉屬セル第五十一師團ノ缺員補充方配慮アリ度

將校以下轉屬人員ハ後報ス

(終)

目誌用

電報

七二二
一四四
一九一
二〇四
三〇〇
二一〇
三〇〇
點

昭和一八七二

狂部隊參謀長

通電先 次長 剛洋 戰鬥司令部 教導飛行團

猛參電第六七一號(電註 其ノ一未著ナルモ取敢ズ提出ス)

「ゴリ」河橋梁又同約四〇機ハ「バイ」「エ」ノダメイネ「バガ
 シン」南方約三〇軒ノ間ヲ各々銃爆撃セリ「エリマ」揚陸施設
 々ハ損害ナシ

「ゴリ」河橋梁ハ二十日及二十一日ノ爆撃ニ依リ破壊セラレ附近ノ
 自動貨車三俵上人員六負傷

(終)

アリ

二十日「サルス」湖方面ノ敵十榴級六門「モンカン」ヲ射撃セ
リ

四「サラモア」附近ノ歩兵第百二聯隊「マロロ」及西南方高地ノ
歩兵第百十五聯隊ノ一中隊ハ「ブイリス」河東側高地へ「サラ
モア」西南方一ノ一軒ヲ占領シアリ

「ブサマ」ニ山砲一中隊ヲ配置セリ

「バング」攻撃部隊ハ十八日夜「マロロ」ヲ出發セリ 「バン

グ」ノ敵ハ減少セルモノノ如シ

五「ラエ」方面ハ大ナル變化ナシ

六洋部隊ハ兵力不足ト悪天候ヲ冒シ主トシテ「ナツソウ」「カ

ミアタム」正面ノ敵ヲ攻撃シアリ

七潜水艦ノ突入（二回）、荒天ニ依ル大發ノ運航困難ニ依リ「ラエ」

「サラモア」ニ對スル補給ハ一時圓滑ヲ缺キシモ二十二日迄ノ

糧秣ハ保有シアリ二十一日、二十二日更ニ約三〇噸到着セシ筈

ナリ 軍ハ諸障礙ヲ排シ輸送ヲ促進シアリ

「サラモア」附近ハ土民四散シ兵力ヲ以テ第一線ニ補給シアリ

猛參電第六六六號へ續ク

（終）

野大隊ヲ「ウエルス」正面ニ増加シ且歩兵團（「フランシスコ」
河ヨリ「カミアタム」ヲ經テ「タンブスナ」山ニ亘リ防禦シアリ
ノ有力ナル一部ヲ以テ十八日ヨリ「ウエルス」「バイル」「ベセ」
方向ヲ攻撃中

敵ノ抵抗頑強敵機爆撃熾烈ニシテ我が損害一日平均約五〇戦團
カ三〇内外ニ減少セル中隊アリ

敵ハ連日砲送機八乃至一六機ヲ以テ物料投下シアリ

「カミアタム」方面

「ムボ」守備隊ハ十三日「カミアタム」ニ撤退セリ

十六日「タンブ」山ニ約一〇〇（迫撃砲三）ノ敵來攻シ歩兵第六
十六聯隊主力（一大隊）ハ十八日夜反撃セルモ撃退スルニ至ラズ
十六日「カミアタム」南麓ニ約一〇〇ノ敵來攻セルモ撃退ス
十九日同正面ニ十五種級迫撃砲現出セリ
猛參電第六六五號へ續ク

（終）

第三課

至急秘親展

日誌用

電報

七	二	二	二
二	二	一	二
二	一	一	二
一	七	四	二
二	〇	一	〇
〇	〇	八	〇
〇	〇	〇	〇

昭和一八七二四

猛部隊參謀長

通電先 剛 猛連絡所

參考 次長

猛參電第六九三號

La

田中參謀ノ歸還報告ニ依ル基兵團ノ現状概要左ノ如シ(二十現在)

(1) 「ラバウル」「サラモア」地區 四、一〇〇(内第一線歩兵砲兵

工兵約二、六〇〇)ニシテ入院患者約一〇〇ヲ含ム

「カエ」地區 一、四〇〇(患者約五五〇ヲ含ム)

(2) 兵力配置

115

0118

「ポイン」方面

歩兵第六十六聯隊第三大隊（二中隊欠） 山砲一中隊 海軍一小

隊 山砲二門（十門兵力二五〇）

「カミアタム」方面

歩兵第六十六聯隊本部第二大隊（第五中隊欠）第九、第十二中隊

山砲二中隊 師團工兵主力 聯隊砲二 山砲二 追撃砲三

兵力約九五〇

「ボブダビ」方面

獨立歩兵第六十六聯隊第一大隊 神野大隊主力 獨立工兵第三十

聯隊主力 大隊砲一 兵力約九五〇

「マロロ」「バング」方面

3050
2750
1400
4350

600
2250
2950
250
2950
1500

0119

116

歩兵第百二聯隊主力 山砲一中隊 山砲二十榴一 兵力約四五〇

「マーカム」方面

歩兵第百十五聯隊主力 聯隊砲一 兵力約二五〇 師團豫備隊

歩兵第百十五聯隊第一大隊 約二五〇 砲兵主力

山砲四 十五榴二 十加一

一級ニ第一線歩兵中隊兵力ハ三〇乃至六〇名

(9) 戦況

「ボイン」方面

主陣地前ニ敵歩兵約一、〇〇〇 中口径火砲迫撃砲各六門現レ攻

撃ヲ開始セリ?

「カミアダム」方面

「ダンブ」山附近ニ敵約二〇〇現出セルモ一應退セリ

「ボブダビ」方面

稜線ニ進出シアリシ敵ノ最後ノ據點ヲ攻撃中

(4) 陣地構築

掩體ヲ概成シ掩蓋ヲ若干構築シ七月下旬一應ノ野戦陣地概成ノ見込

(5) 後方状況

糧秣ハ「ラ、サ」地區合計約二日餘リヲ有スルニ過ギズ海軍ヨリ

一〇應ヲ借用シアリ

彈藥ハ特ニ各種砲兵彈藥著シク缺乏シアリ

砲彈總數 十加約五 十五榴約三〇 十榴約五〇 山砲約六〇〇

又軍需品担送力極メテ微弱ニシテ師團司令部衛兵當番兵ヲ合スル
モ日量約一〇〇人ナリ

(3) 一般ニ師團ハ陣地死守ト殺敵ヲ目標トシ一意任務達成ニ邁進シ
ルモ敵ノ絶對的制空下小隊兵力ヲ以テ長期ニ亘ル本格的攻撃ニ對
シ敢テ十軒ニ亘ル戦線ノ維持ハ至急兵力ヲ増強スルニアラザレバ

メテ困難ナリト判断セラル

(7) 「サラモア」海軍警備隊ハ極メテ密接ニ陸軍ニ協同シアリ

(8) 細部ハ印刷報告ス

(終)

目録用

電報

七	七	昭和一八七二回
二	二	發
三	三	著
一	一	受
七	七	歸
三	三	參
一	一	謀
三	三	長

通電先

次長 剛河 第三野戦隊司令部 守備軍
(剛八洋ニ傳ヘラレ度)

猛勢電第七〇一號

猛勢電第四九八號ニ依ル空中爆雷ハ實ニ尙不明ナルモ目撃者ノ言ニ
 依レバ曳火爆弾類ニシテ地上五〇乃至一〇〇米ニ於テ炸裂シ彈子破
 片ヲ降ラシ専ラ人馬ノ殺傷ヲ收ムヲ目的トスルモノノ如シ
 未ダ之ニ依ル損害ナシ

(終)

日誌用

電報

七二
二二
四三
一一〇二
五七一三
二五三〇
〇〇五〇
點受著發

昭和一八七二四

猛部隊參謀長

通電先 次長 剛

猛參電第七三三號

一本二十三日十時頃ヨリ敵戰爆連合三七機ハ「ゴリ」河ハ「ボガジム」北方五軒ヨリ「ボガジム」間ノ道路兩側ノ椰子林ヲ銃爆セリ 損害戦死一

右ハ同地附近ノ我が部隊ノ宿營地ヲ軍需品集積地存在セルモノト判断シ攻撃セルモノノ如シ

最近「ボガジム」「エリマ」附近ニ對スル敵機ノ攻撃ハ執拗ヲ極
メ特ニ注意ヲ要スル所ナリ
現在「エリマ」ニハ第二十師團ヨリノ機關銃一中隊（一二銃）位
置シ防禦ニ任ジアリ

（終）

0125

122



電報

七	七
二	二
三	三
二	一
二	七
〇	三
〇	五
〇	〇

猛 部 隊 參 謀 長

昭和一八七二四

通電先 次長 河 第三野戦輸送司令官

猛参電第七〇〇號

「ナツソウ」ニ上陸セル米兵ノ携行品

一 防毒覆ノ如キモノ

二 晒粉入(岡持)ノ如キモノ

三 防毒面

四 上衣(防毒袋、襦袢類似ス)及蕃刀風ノモノ

123

0126

六 藥品 粗株ハ濠洲兵ノモノニ概ネ同ジ

六 帶劍ヲ擬シアラズ

七 救命胴衣ハ「チヨツキ」形ナリ

八 鐵帽ハ獨逸兵風ノモノ

帽子ハ防暑用「ソフト」ニ類似ス

九 小圓匙（我が軍ノモノヨリ小）

（終）

(8) 戦病入院四六八(一〇)内戦病死三七

計 一、〇七一(五四)

ニ一日平均約四八名損耗ス

三第一項以外ニ隊治療ノ戦傷病者同數位アリ

四現在「サラモア」地區第一線兵力ハ約三、三〇〇ニシテ應役人員ハ

約二、六五〇名ナリ

1071
403

1554

83
383

466

483
417

900

(終)

隊形ノ進路ト併行側面ヨリ挾撃ス

特ニ指揮艇ニ對スル攻撃ハ熾烈

ニ命中彈一隻ニ三發以上 室及彈痕平均二乃至一〇櫃程度ナリ

(終)

〇〇

射砲全カヲ以テ射撃シ「B」ニ四「一機ハ火災ヲ起シ

墜落ス

一機ハ離列高度ヲ下ゲ「ホテ」山ニ

隠レタリ

最近高射砲弾薬及信管ハ良好トナレリ、高射砲

一門故障當分使用不可能ナリ目下「ラエ」ニハ

高射砲ヲク二十六日運砲筒ニ依リ二門到着セシ筈

ニ二十六日「サラワク」「カミアタム」「ホブタビ」ヲ攻撃セル

敵機ハ大型[?]三七機中型三九機小型四[?]一機ニシテ

我[?]ノ損害機關砲一門戦死者若干アル見込

(終)

132

0135

目録用

秘

電報

次長宛
猛部隊參謀長
七二八二一五發
七二九〇一五著
七二九一〇〇受
七二九一〇〇結

昭和一八四二九

猛參電第八六四號（電註、其ノ五、八再電要求中ナルモ配布ス）

七月二十六日迄ノ「ラエ」「サラモア」方面ノ狀況

一 海岸方面

二十一日「サワイシ」南方ニ上陸セル敵ノ兵力、行動明カナラザルモ「ポイシ」南方「ダンプ」山方向ヘノ前進ヲ準備シツツアルモノノ如シ

「サルス」湖北岸ノ敵重砲兵ハ「ポイシ」附近ヲ盛シニ射撃ス

在「サラモア」十加ヲ以テ一時制壓セルモ彈藥少キ爲效果十分
ナラザル見込ナリ 航空部隊モ之ヲ攻撃シアルモ成果未ダ不明
ナリ敵ノ舟艇十七日一九隻「ナツソウ」ニ、二十日六隻「サル
ス」湖附近ニ到着セリ

二十三日「モロベ」ニ海上「トラツク」四アリ一般ニ海上交通
ハ比較的閑散ナリ

ニ「カミアタム」ニ至ル「ダンプ」間[?]正面敵兵力増加シ五〇〇

(山砲、追撃砲計約一〇)ニ達シ二十三日十時其ノ一部我が陣
内ニ進入セルモ白兵戦ニ依リ

(以下一部再電要求中)

同日十一時四十分「カミアタム」ニ約五〇ノ敵攻撃シ來レルモ

其ノ半數ハ射殺セリ

三 「ボブダビ」方面

「ニルエキ」前方ノ敵ヲ驅逐シ左翼方面ノ防禦態勢ヲ確立セリ

「サムリング」北方高地ノ殘存敵據點ニ對シ依然攻襲中ナリ

(以下一部再電要求中)

二十六日午前敵大型七四機「サラモア」及「マロロ」ヲ十二

時引續キテ數機「ボブダビ」ヲ爆撃セリ

「ダルス」方面ノ敵砲兵ノ活動モウリ敵ノ新企圖ニ關シ注意ノ

要アリ

益參電第八六五號ハ續ク

(終)



山

電報

ニ	一	一	一
一	九	〇	五
一	〇	〇	五
一	五	五	五
一	五	五	五

猛 部 隊 參 謀 長

昭和一八七二九

通電先 次長 剛 河 第三野戦輸送司令官 洋 「パラオ」

猛參電第八六五號

猛參電第八六四號ノ續

「バング」方面ノ我が陸海軍部隊ハ河口附近ニ對峙シアリ

「レガ」(河口西方一〇軒)附近ニハ一部ノ敵アルモノノ如シ

「ラエ」方面異狀ナシ

六二十四日神野大隊(歩兵第八十聯隊ノ第一大隊)最後尾タル山砲

中隊主力歩兵小隊南進シテ「サラモア」ニ到着シタルガ「シ」島
攻略部隊ハ未ダ「フィンシュ」ニ到着セズ

歩兵第二百三十八聯隊先頭大隊ハ二十五日二十六日「シオ」ヲ出
發海路「フィンシュ」ニ前進セシ筈

廿二十二日大發ニ依リ八噸二十三日潜水艦ニ依リ一〇噸ノ糧食「ラ
エ」ニ到着爾後「フィンシュ」ヨリノ舟艇携行糧秣到着シツツア
リ 各部隊ハ携帶口糧定量給養ナリ

ハ「サラモア」周邊ノ我が陣地ハ未ダ所望ノ強度ニ達セザルモ逐次
強化セラレアリ

各掩蔽及掩蓋ヲ若干構築セル程度ナルモ「ボブダビ」周邊ハ比較
的強度大ナリ 師團長ハ陣地構築ニ關シ詳細ナル訓示ヲ與ヘ指導
ニ努メアリ

(終)

九月末「マブルグ」東南方一五紮鞍部ニ達スル豫定ナリ（目下一日ノ進捗實距離約八〇〇米）

「ラム」河河岸ニ至ル駄馬道鞍部ヨリ「オリヤ」河上流河谷及「スリマ」ヲ過テ「スリナム」河左岸「トシブ」東方一〇紮ニ至ルヲ最良トス

(ロ) 師團ハ別ニ小隊ヲ「スリマ」「ウリギバ」「マダン」西南方三一紮「ムホツ」へ「マダン」西西南六〇紮ニ派遣シ搜索及警戒ニ任ゼシメアリ

(イ) 「ラム」河左岸ノ敵、監視網ハ稍ト増加セラレタルガ如ク其ノ斥候時々右岸ニ出沒ス

ニ「ウエワク」方面へ濠洲百萬分ノ一航空圖ニ依ル

0.8
600
1000

(4) 第四十一師團ハ其ノ一部ヲ「セビク」河ノ要點ニ配置シ歩兵

約三大隊ヲ以テ「ブイツ」―「マブリツク」道ヲ構築ス

歩兵一大隊ヲ以テ「ブイツ」飛行場、歩兵三大隊砲兵二大隊

ヲ以テ「ウエワク」飛行場ヲ整備中トリ

「セビク」河方面ノ配備ハ「マリエンブルグ」ニ一小隊「ア

ンゴラム」ニ大隊長ノ指揮スル一小隊「カンダリンド」(「ア

ンゴラム」上流三〇軒)ニ一小隊「アサムグト」(「ド

アア」河中流)及「ビワー」(「ドーフア」河下流)ニ

約一分隊、「ブルイ」(「マルイ」北側)ニ大隊長ノ指揮ス

ル歩兵砲二五〇ヲ指揮下ニ入ラシメ「マルイ」及「マブリツ

ク」ニ派遣シアリ 將來更ニ「ニゴラム」―「マルイ」間ニ小

部隊ヲ配置シ逐次「ドーフア」河ニ沿ヒ南下スル筈ナリ

ナラズ
(四) 「セビツク」右岸ニハ敵諜報機關アルモノノ如キモ状況明カ

(終)

141

0144

新機四銃一中隊 七照空中隊

ニ「ブイツ」東 四十 高射砲中隊 (四)

六十一高射砲大隊ノ一中隊 (六)

新機四砲一中隊 四照空中隊

三「ウエワク」中

六十一高射砲大隊 (一中隊缺) (一二)

六十四高射砲大隊 (一中隊缺) (一二)

新機四砲一中隊

一照空中隊

四「ウエワク」東

六十二高射砲大隊 (一八)

二照空中隊

五「ボイキン」

六十四高射砲大隊ノ一中隊（六）

六「ハンサー」六十五高射砲大隊（一八）

新高射砲大隊（一中隊缺）（一二）

新機關砲二中隊 八照空中隊

七「ウリングアン」三十八高射砲中隊（四）

八「ブナブシ」新高射砲大隊一中隊（六）

九「アレキシス」六十三高射砲大隊 新機關砲一中隊

四照空中隊大隊一中隊

一〇「マダン」五十六高射砲大隊（一二） 新機關砲一中隊

三 照空 中隊

一「エリマ」五十八高射砲大隊ノ一中隊（六）

二「フィンシュ」四十一高射砲中隊（四） 三十機關砲中隊

新機關砲一中隊

一「シオ」新機關砲一中隊

二「ラエ」二十四 二十五 二十九機關砲中隊

三「サラモア」五十高射砲大隊ノ一中隊（四） 十五、十九、二十

機關砲中隊

一六野戦防空隊司令部ハ「マダン」ニ位置シ「マダン」「アレキシス」ノ防空部隊ヲ指揮スルト共ニ全防空部隊ノ教育訓練ヲ統轄セシム

一七委細最近便ニ依リ空送ス

（終）

第三卷

日誌要聞秘

電報

七二九
一一〇
一四八
一〇發

昭和十八年八月三日

益部隊隊長

通電先 次長 次官 剛

猛勢電第九一五號

七月二十八日午後「ボブダビ」高地守備小山申隊ハ敵ノ攻撃ヲ受ケ同地ヲ撤退復歸ス詳細後報ス

(終)



至急極秘親展

電報

電	報	電	報	電	報	電	報
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
八	六	六	六	〇	〇	〇	〇
二	四	二	二	〇	〇	〇	〇
〇	五	〇	〇	〇	〇	〇	〇
點	受	署	發				

陸軍部除渉課長

通信先 次長 閣

陸軍電符九二九號

昭和二十六年三月

0151

二十八日米軍一部「カミアアタム」東兩被襲我ガ陣地ノ間隙ニ進出セ
 ルト「ボブダビ」陣地ニモ亦派洲軍一部進入セルモ御國ハ各隊兵力
 ノ波耗ト正面進軍ニシテ御ル所敵ノ潛入ニ反シ我ニ反撃スル兵力ナ
 ●一團四ハ歩兵工兵砲兵ノ全戦力ハ實力ニ、五〇〇名程度ニ遂次大
 隊機動中ノ兵力ヲ精純（一日少クモ五〇）ヲ補強シ得ザル狀況ニ鑑ミ

軍ハ師團ヲシテ適時戦面ヲ收縮「サラモア」半島ヨリ「フランシス
コ」河左岸ヲ「マコロ」ニ互ル機ニ機助シ「サラモア」地區ヲ確保
シ機ヲ失セズ強化スル如ク二十八日發令セラレタリ

戦面收縮ニ關シテハ二十三日第五十一師團ニ配屬セラレアル田中參

謀總絡ニ來レル機師團長隈リトシテ要旨ヲ示サレアリ (終)

第二課

日誌用

至極秘親展

電報

六	三	二
三	三	六
〇	〇	二
〇	〇	二
八	六	二
三	五	三
〇	〇	〇
廣	受	著

猛部隊 參謀長

昭和二十六年三月

通電先 次長 剛

孫參電第九三九號

二十九日第五十一師團ハ筑波山（「マロロ」西南現陣地構築中高地）ヨリ「ボフダビ」河川屈曲部北側ヲ經テ草山、山田山（第二「ロカン」西側一帯高地）ニ亘ル間ニ厚地ヲ收縮シ敵ノ攻勢破碎ヲ期シアリ

（終）